

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成24年6月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は6から5に減少。「減少した」業種は4から5に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は9から7に減少。「減少した」業種は11から12に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は3から5に増加。「悪化した」業種は11から10に減少。

前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は6から5に減少。「減少した」業種は7から8に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は12から8に減少。「減少した」業種は9から10に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は7のまま変化なし。「悪化した」業種は17から16に減少。

製造業

■しよゆ製造

【県内全域】

中元需要が動き始めた。

■豆腐製造

【県内全域】

6月も引き続き、今後大豆価格の上昇が予想される。現状をメデア等に取り上げてほしい。

県内で高齢による廃業が続いている。業界全体でも後継者不足が問題となっている。

■製材

【県内全域】

住宅エコポイントの効果で、住宅着工は増加し続けていたが、申請が増え、エコポイントは終了することになった。早期の再開が望まれる。

■製材

【木更津】

東日本大震災の関連で合板等の需要が微増。

■印刷

【県内全域】

受注売上は、5月と比較して操業日数や景況感が少し改善した事などから若干好転した模様。前年同月比はほぼ同じとの声。官公需・民需共にまだ需要が不足しており、受注競争の激化による単価下落・予算縮減の影響による物件の減少や数量の減少が見受けられる。各社はパラダイムの変化に的確にシフトできるよう、業態の変革が急務になっている。

務になっている。

■電気鍍金

【千葉】

月半ばより幾分持ち直してきたと思つたが、月半ばより受注量が減少してきた。前年比92%。

■鉄工

【千葉】

全体景気の頭打ちを背景に、徐々に停滞感が出始めたこともあり、組合員の一部では採算の厳しいオーダーも見受けられる様子。全体動向としては、現状特段の変化も見られず、横ばい推移が続いている。

■機械部品製造

【野田】

全体的に操業度が上がったように見えたが、先行きの受注が少なく、成行きが心配される。

■機械部品製造

【流山】

前月と同じように前年同月に比べ売上は微増しているが、上昇傾向とは言えない。

■機械部品製造

【柏】

円高、株安の背景が更に海外生産、調達を推し進めている状況と不透明さがマインドを下げている。

■金属製品製造

【船橋】

あと一歩というところで、落ち着き加減、先行き不透明感が強い。

■採石

【県内全域】

東京港では湾港整備が始まり、若干とはいえ前年30%程度の増が

見込める。今後、横浜港の南本牧コンテナターミナル整備事業での工事が8月以降見込まれる。

【土砂採取】

【県内全域】

全体的には景気の低迷により引き続き公共事業等の発注が減少し、それに伴い骨材の需要も減少したまま推移している。そのような中、県はリサイクル原則化ルールに基づき公共工事で発生する建設発生土の再利用を徹底していることからますます公共工事の骨材の需要増は見込めず、引き続き厳しい経営環境にある。販売価格の低下、収益状況の悪化、資金繰りの悪化、雇用人員の減少のところもあるが、各業者ごとに明暗が分かれている。

一方、一部には前月同様災害復旧の関係で骨材需要増加の方向のところがある。

非製造業

【総合卸売】

【千葉県・東京都】

【酒類】梅雨の後半に入り、第3のビール・アルコール系飲料の出荷増加。ノンアルコールのビールに加え、ノンアルコールの酒・ワイン・焼酎等種類も増えている。【日用雑貨】今年、虫よけ剤関係の出荷が昨年に比べ増加傾向。

【建築材料卸売】

【県内全域】

建材全般に需要が先細り気味。セメントは東北中心に需要が見込まれるため全国総量は前年より増えるが、千葉に関しては期待できない。但し、前年より悪くなる材料はいまのところない。

【自動車解体】

【県内全域】

エコカー補助金が7月中には終了する見込みから先行きに不安感。対ドル80円を切る円高が続き、海外向け販売はじわじわと影響が出てきている。

ハイブリット車などのエコカーを中心に、レアメタル回収のためにカーメーカー側で、廃自動車の流通についての動きが続いている。

【乾物卸売】

【県内全域】

CODEX（国際食品安全規格）の海苔に関する規格制定が韓国より提案され、アジア地域調整部会の公式規格素案は、韓国中心のものであり、日本の主張を強く通していきたい。

【小売】

【柏】

月末には夏物のバーゲンスタートする量販店もあり、販売価格が低下している。

【電気機器小売】

【県内全域】

先月に続き販売の低迷が止まな

い。期待される太陽光発電も初期投資金が最大の為いまだ伸びず。先が読めない。ただエアコンの動きが見られるので猛暑を期待。

【青果小売】

【千葉】

相場が安定し、商品も確保しやすくなり収益を取りやすくなった。主力商品のメロン・スイカ・キャベツ等の動きが良かった。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】

エコカー補助金や減税による新車販売の活況、中古車の供給過多による相場の下落状態が続いている。今後のボーナス商戦に期待するも相場の大きな変動は見られず、小売は苦戦が続いている。

【小売】

【東金】

食品は前年より若干上向き。ファッション関連品は、夏物バーゲンが7月1日からの下向き傾向。来月に期待したい。高額品関係は依然低迷。（百貨店の動きとは違う傾向）

【小売】

【野田】

未だに低価格志向であるが、食料品の売上が伸びてきた。しかしながら、衣料品は引き続き低迷している。

【建設揚重】

【県内全域】

設備の稼働状況は5月は少し戻

り傾向にあったが、6月に入り下降。少し停滞状況が続くそう。

【遊覧船】

【鴨川】

3・11以前に比べると、未だ60～80%の回復しか見られない。

【一般廃棄物処理】

【千葉市】

昨年6月は地デジ化の影響により、テレビの排出量が多く景気の良い月となったが、今年については例年通り動きの少ない月となり、景況も悪化の結果となった。

【ソフトウエア】

【県内全域】

年度末（3月）が過ぎ、時期的にも厳しい状況。

【建設】

【県内全域】

当連合会加入組合員の受注額は4,798百万。これは前月比で1,874百万の減少。前年同月比でも566百万の減少となった。主な減少地域は千葉、北総、君津、京葉の4地域。

【貨物運送】

【野田】

景況については感覚よりデータは良い方に振れている。不安感はあるが実際には回復してきているのかもしれない。

【輸出入】

【県内全域】

戻りつつあるが円高が続き、景気に響いている。